

平和を希求する心を育てる取組

報告年月日 2019年9月16日
 都市名・国 ダンケルク・フランス

取組の名称	ダンケルクから広島へ：平和の希望
実施主体 (該当項目に✓)	<input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input type="checkbox"/> 複合 ()
テーマ・目的	平和
対象者 (年齢・学年、人数等)	子ども(12～15歳)15名、大人2名(版画家、日本クラブ顧問)
実施場所	コレージュ・サクレ・クール(ダンケルク)
実施期間	2019年3月12日～2019年4月2日(21日間)
取組の概要	<p>復興した都市で生きるとはどういうことかを当校の生徒に理解させるため、ダンケルクが経験した歴史と広島の苦難を比較したいと考えた。</p> <p>子どもたちはまず、自分たちの街が破壊されたという歴史的な事実を知り、次に映画『世界の片隅に』を鑑賞して広島で起きたことを学んだ。生徒たちは被爆者の証言を聞いた後、広島や平和、希望について創作活動を行った。版画を用いて冊子を作り、ダンケルクで昨年5月に開催された会議「ヴィル・メモワール(思い出の街)」に出席したすべての代表者に配布した。</p>
参加者の反応	<p>当校の生徒たちは原爆の身体的、心理的影響を知って驚いていた。広島の惨禍の恐ろしさについて知らなかったり、想像すらしていなかったため、版画創作の際に大きな影響を与えた。惨禍の悲しみを表現しようとする生徒もいれば、希望と生命の継続性を伝えたいと考える生徒もいた。</p>
成果	<p>生徒たちは全員、美帆ンボさんや各代表者、松井一實広島市長に冊子を渡すことを心から喜び、誇りに感じていた。また、作品が中国新聞の記事に掲載されることになり、非常に喜んでいる。</p>
課題	<p>特になし。</p>
取組で使用した素材について	<p>使用したビデオ：hibakushas.arte.tv</p> <p>使用した書籍：Hiroshima, deux cerisiers et un poisson-lune／広島、2本の桜の木と1匹のマンボウ(Editions Rue du Monde)、Hiroshima, l'histoire de la première bombe atomique／広島、初めての原爆の物語(Gallimard Jeunesse)、Je fais un oiseau pour la paix／私は平和のツルを折る(Rue du Monde)</p>
上記素材の共有の可否	<p><input checked="" type="checkbox"/>掲載可能(素材を添付してください) <input type="checkbox"/>掲載不可 <input type="checkbox"/>不明</p>